

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ベガサスこどもデイセンター		
○保護者評価実施期間	2025年8月1日		2025年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	2025年8月1日		2025年8月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月8日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師加配が充実しており、医療ケアに強い。</li> <li>研修・勉強会など積極的に参加し療育の質を向上させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンツーマンでの個別支援、障がいの程度や発達段階に沿った療育の提供を行っている。スタッフ間でも日頃から意見交換をし、支援につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野との連携、多職種による支援・日々向上できるように成長志向を持ち続ける。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士、理学療法士、作業療法士が在籍、また、法人内には言語聴覚士、公認心理士など多くの職種が在籍しており、利用者のニーズに応じた支援が行える。スタッフ間の関係も良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じる制作活動や遊びを行っている。</li> <li>意思表示に対する支援を行っている。</li> <li>重心連絡会に参加し、制度・療育についての情報交換・勉強会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障がい・聴力障がいのある子どもへの療育</li> <li>各事業所からの学びをスタッフ間で話し合い、目標をもって取り組めるようにする。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベガサスレスパイトケアセンター、ベガサスこどもデイセンター福泉、ベガサスこどもデイセンターポニー・ベガサスこどもデイセンターの4事業所があるので、円滑な受け入れ調整が行える。また夏祭り・クリスマスなど合同で行えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の児童との関わり・刺激を目的とした上で保育園へ訪問し、発表会・運動会(リハーサル)や避難訓練・医療的ケア児交流会の場を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園への訪問だけでなく、事業所を開放し、交流の機会を設ける。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族支援プログラム、きょうだい児支援が弱い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>家族やきょうだい児が実際のようなことで困っているのかを、把握する必要がある。その中で、デイとしてできることを考え、支援を行っていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会や地域との交流が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者同士の交流については保護者からの希望はなく、また、発達状況や年齢も異なるため、交流自体が難しい面もある。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所で活動できるスペースに限りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所だけでなく、保育園のスペースを利用活用できていない。</li> <li>医療的ケア児が多い中、野外での活動は、難しい面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園のスケジュールをあらかじめ確認する。気候の良い日をリサーチし、その日の活動内容にしっかり入れ込む</li> </ul>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ベガサスこどもデイセンター

公表日 2025年 10月 31日

利用児童数 7人

回収数 6人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1		1	歩行の訓練が出来るくらいのスペースが欲しい。 とてもよくみている。	活動スペースを確保し、児に合わせた活動が出来るようにする。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5			1	配置の適正はわかりかねます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5			1		さらに危険がなく安心してご利用いただける空間づくりを行う
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4			2		まだ保育園の交流に参加したことがない利用児もいるため、これからも交流を続け、案内を配布する。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5		1			要望があれば家族も参加できる研修会や情報提供の場を検討する
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5		1			不安があっても自ら発信できない保護者に対して、こちらが気づき対応していきたい
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3		1	2		保護者の助けとなるようなきょうだい児支援を提案したい
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4		1	1	されていると思う	マニュアルについての説明や、訓練の報告をもっと積極的に行う。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1	されていると思う	マニュアルについての説明や、訓練の報告をもっと積極的に行う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				安全に留意してくれる。 安心している。 帰りは怒っている。楽しいのと思う。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名 ペガサスこどもデイセンター

公表日 2025年 10月 31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	4	時間差でプレイルームを使用し、安全の確保に努めている。 限られた空間を工夫して活用している。	活動スペースを確保するため、利用児のバギーや荷物を工夫して置く必要がある整理整頓に努める。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	配属スタッフでカバーしている。 看護職員を多く配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	背もたれ、肘置きがしっかりしている椅子を作成した。利用児に合わせて工夫している。	視覚障がい児に分かるような目印や場所を誘導する工夫が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		出来る範囲での工夫を行っている。 業務終了後に清掃・消毒を行い、危険がないよう物の配置にも気を使っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	カーテンやパーテーションを活用し、個人のスペースを確保している。	音が交差するため、必要時場所の確保を検討する必要がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		スタッフ全員が常に高い意識を持っている 計画はスタッフ全員で話し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	支援計画に反映している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	毎朝ミーティングを持ち、情報共有を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		第三者による評価は行っていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内外で研修の機会が多く、スタッフは積極的に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			公表している
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		保護者からの聞き取りや希望を重要視している	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		受け持ち担当者を中心に、スタッフ全員の意見を聞いたうえで作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		立案した内容が実行出来るよう、個人の当日のスケジュールに記載している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	インフォーマルなアセスメントを用いて確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		5領域に沿った支援計画を作成している。 スタッフ皆で意見を出し合い立案している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	多職種で連携して行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎年度初めに、保育士を中心に活動プログラムを更新している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの状態に合わせて、可能な限りで小集団での活動も取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		業務分担表を用いてミーティングを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後に共有出来ない時は、事業所内の伝達ノートに記載し、翌朝のミーティング時に共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		所定の記録用紙に書き、記録を残している。保護者からのメモはコピーしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		主に送迎時にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		具体的に支援計画を作成している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		利用児童を担当制にし、担当者が連携や顔着に出席している。それぞれに合った意思疎通方法を考え、計画に取り入れている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		それぞれに合った意思疎通方法を考え、計画に取り入れている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	訪問支援で支援が継続出来るように介入している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	無回答 2	事業所の相談支援員を通じて連携を図っている	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		同グループ保育園での発表会、避難訓練に参加したり、近隣託児所の子を夏祭りにお誘いしている。	さらに開かれた事業所となるように機会を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡ノートを通じて伝えたり、送迎時に直接会って情報共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	定期的に関係機関と医療的ケア児、家族との交流会の場を持っている。	保護者の交流会に参加されないご家族のアプローチの検討が必要。
		35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に行い、不明な点はいつでもご質問いただけるような関係づくりに努めている。
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		懸隔案にて意向の確認を行い、追加・修正があれば本計画に反映させている。	
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		支援内容に関しては、状況等をイメージしやすいように家族に伝え、同じ目標を持って進めるように努めている。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	即答できないご相談に関しては、スタッフ間や専門職種と検討し、応じている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	定期的に関係機関と医療ケア児、家族との交流会の場を持っている。	きょうだい児支援は今後前向きに検討していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		カスタマーズセンターを設けており、24時間体制で対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月デイセンターだよりの発行、定期的にインスタグラムの投稿で発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時、個人情報の取り扱いは最小限にとどめることを説明し、十分留意している。同意書に署名をいただいている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		それぞれに合った意思疎通方法を考え、計画に取り入れている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	近隣の託児所の児童を行事に招待し、開かれた事業所に努めている。	利用児と近隣児童が交流できる機会をさらに検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルを完備している。発生を想定したシミュレーションを定期的に行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		策定している。消防署同伴の訓練を年1回、自主訓練を年1回行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		常に主治医と連携している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	6		医療連携用紙（指示書）に基づき、必要であればアレルギー除去食の提供を行っている。エピペンの模擬実習を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		法人内で医療安全、感染対策についての研修が行われており、スタッフ全員が履修している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		送迎時の事故や体調の急変に関しては、家族との連携が図れるようマニュアルを完備し、周知出来ている。	災害時の避難経路や避難先についてはもっと詳しく家族に周知するべき
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		法人内全体で共有し、再発防止に取り組んでいる。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		「大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修」を受講している。法人内の人権委員会に出席している。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		記載している。やむを得ない身体拘束については、書面にて家族の同意をいただいている。		